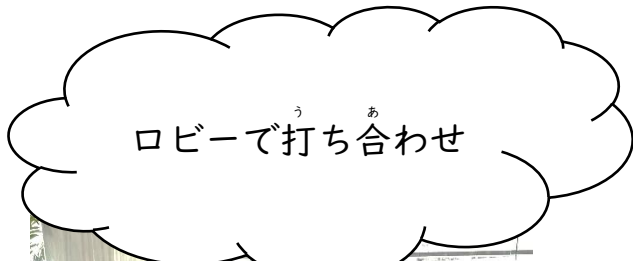


来週は県福祉課とも回答、意見交換を行い、名称変更と内容についても要請を行う。

また、県知事宛、県議会に向けても要請を行う予定。



意見交換



ミニ打ち上げ

バス研修

7月26日(水)の研修では、バス会社側の担当の方の説明が、車椅子ユーザーが話をしているのかと思うくらい、当事者の立ち位置から見える課題や必要な配慮の説明をしていた。

バス会社の担当がしっかりと落とし込んで他の職員に説明し、さらにイルカのメンバーとタグを組んで、より精度の高い研修内容になっていると思った。

今回の研修から、知的障害者の具体的な困り感も研修内容に盛り込んでもらった。

沖縄県は、公共交通の活性化に向けて、『わったーバス党』をつくり推進事業を行っている。

<https://www.watta-bus.com/about/manifesto.php>

イルカがバス会社と積み上げてきた成果も生かされていると思う。

ただ、県内の『わったーバス党』などの公共交通の推進事業もそうだが、内閣府や国土交通省

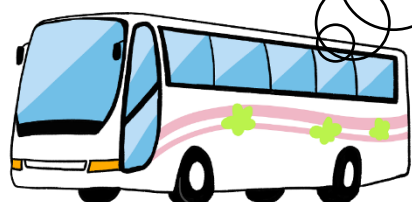
だ こんきょうこうつう きかん ごうりてきはいりよ じれい ちてきしょうがい じへい たいおう
 が出している公共交通機関の合理的配慮の事例などは、知的障害や自閉スペクトラムに対応す
 る具体的な視点が欠けていると感じる。

こうべし さんようでんてつ わ ことば い けいはつ さくせい
 神戸市や山陽電鉄など、分かりやすい言葉とイラストを入れて啓発のポスターを作成していると
 ころもある。沖縄県でもぜひ、『わったーバス党』などの公共交通機関の推進事業の中で、啓発
 のためのポスター作成、掲示はもとより、公共交通機関の職員研修の中にも取り入れていって
 ほしい。

しょうがい とくせい こま かん こじん もんだい しゃかい か ようぼう
 障害の特性からくる困り感を個人だけの問題にせず社会化するために、こういったことを要望
 していくためにはどういった手順で動けばいいか、イルカのバス研修担当の当事者たちとも連
 携しながら話し合いを重ねている。



せつめい
 説明をしてる



けんしゅう ようす
 研修の様子